

馬見塚 昭久著 「靈箭 阿波研造物語」 (日本武道館、平成十八年六月刊)

本書は、阿波研造の一生を描いたもので、人との出会い (関孝和尚、木村時隆、本多利実、大平善蔵、安沢平次郎、神永政吉、オイゲン・ヘリゲル他) と逸話を交え、常により高い弓の境地を目指す姿勢と過程が物語として示されていますが、本書では弓道八節など技術的な内容には触れていません。

文中、「飛貫中」なる言葉に目が止まりました。鋭く貫通力のある中りを云う由。

かつて、林先生が指導中に、我々が目指すのは、会での手許に引きよせ何時離れても中る状態である「在的」であり、貫通力のある「貫的」ではない、と話されたことが想い出されました。

二〇一三年十一月十七日 井田 晃記



靈箭

阿波研造物語

馬見塚 昭久

口絵 3

第一章 ◆ 感性の源流 9

- 早春の風 10
- 曼珠沙華 18
- 如来の誓願 27
- 漢学私塾 32
- 潮 境 36
- 木村辰五郎時隆 45

第二章 ◆ 自由への階段 97

- 縄張り 52
- 飛貫中 59
- 桜花爛漫 67
- 免許皆伝 73
- 講武館 77
- 茨の道 85
- 大日横丁 92
- 弦 音 98
- 光 明 106
- 矢振り 112
- 髭の弓術師範 118
- 仙台の狂人 125

跋

305

● 小さな鎧	214
● 射道	222
● 心眼	229
● 哲学者	235
● 新しい弓団	243
● 離し	251
● 試し切り	258
● 霧笛	263
● 心の的	272
● 無影の弓	278
● 未発先中	286
● 暗闇	294
● 出立	300

第三章 ◆ 大いなる射の道

● 射裡見性	201
● 空っぽの飯櫃	209

● 月の光	192
● 隻手の音	187
● 獅子の咆吼	179
● 師恩	174
● 武徳殿	168
● 十如是	162
● 無箭	158
● 紙の的	150
● 武術叢書	143
● 青嵐	136